

吉野材を生かしたデザインコンペ

最優秀に「割り鉛筆」

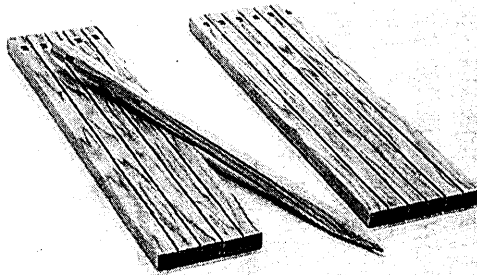
最優秀賞の「割り鉛筆」を考案した吉富寛基さん(県提供)



吉野材の良さを生かした「暮らしの道具」のデザインコンペが東京で行われ、最優秀賞に「割り鉛筆」が選ばれた。新しい鉛筆を割り箸のように割って使うというユニークなアイデアで、吉野材に親しんでもらうアイテムとして県も協力して商品化を目指す。

コンペは、衰退する吉野林業再生のため吉野材の新しいマーケットを開拓するのが目的で、県が森林活性化のプロジェクトを推進する企画運営会社ハートツリー(東京)に委託して実施した。

コンペの最終審査は当初3月に予定されていたが、東日本大震災の影響で延期され、今月13日に東京で行われた。全国から寄せられた219作品のうち、書類審査を通してモデル製品化された15作品を雑誌編集者ら7人が審査。賞金100万円の最優秀賞1点と優秀賞4点が決まった。



吉野材のデザインコンペで最優秀賞に選ばれた「割り鉛筆」(県提供)

の吉富寛基さんがデザイン。端材を活用する割り箸と同様に環境に優しく、文字を書きながら吉野材のなめらかな手触りを味わってもらえる商品として審査員から高評価を得た。

割り鉛筆は9月14～17日に大阪市で開催される住空間の国際見本市「LIVING&DESIGN」に出品し、県も協力して商品化に乗り出すという。

優秀賞には、食べ物を直接乗せる無垢の吉野材のラッチョンボード(盆)▽木目を染しむ組み合わせの皿▽杉の木のように風に揺れる一輪挿し▽折りたたみ式スツール(椅子)の4点選ばれた。